

高鷲町内の神社（3）

天王神社（高鷲村史にこの神社について次のように書いてあった。これを引用す） 祭神は素盞鳴尊。由緒は次の通り。

養老年中、泰澄が越前の白山登山の際、正ヶ洞村に暫く宿泊された時、天王社を建立すると伝える。天暦年中(947~956)年月は分からないが、大内藤原政次という者が鷲見郷に一城を築き、芥見ノ庄一郷の主となり鷲見殿と改めた。鷲見郷の領主より社領として高2石2斗余の寄付があり、その後天正年間(1573~1591)の争乱で鷲見一族の滅亡によって当神社も廃絶した。享保3戊戌年(1718)7月16日に本殿及び拝殿を再建し、神社として崇敬を集めた。



「会報」高鷲の文化財」第110号で記した通り、明治41年(1908)に向鷲見白山神社及び中切、穴洞の白山神社と共に正ヶ洞の天王神社は大鷲白山神社に合祀され、現在に至っている。但し、社殿は大鷲白山神社の横にある。

中切旧白山神社

祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊、菊理姫命。

天明年間(1781~88)に月日は分からないが、中切村の農民鷲見忠左衛門という者が創建したと伝えられている。

明治41年大鷲白山神社へさ合祀れた。今は社殿もない

穴洞旧白山神社

祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊、菊理姫命

天慶時代(939~946)に穴洞村の農業与四郎という者が創立させたと伝わっている。

明治41年大鷲白山神社へさ合祀れた。今は社殿もない。

西洞白山神社

祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊、菊理姫命

長禄元年(1457)11月12日、西洞村の朝日助左衛門という人が、郡上郡鮎走村の白山神社から分霊を受け、白山神社を創建したと伝えられている。

社叢はスギ林からなり、中でも御幣スギと呼ばれている樹齢約400年のスギの巨木が昭和31年(1956)に高鷲村の天然記念物に指定され、郡上市の誕生により市指定記念物となっている。



御幣スギ

鷺見白山神社

祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊、菊理姫命
正応 3 年(1290)月日は分からないが、鷺見村の山口才三郎という者が長滝村の長滝寺から白山神社の分霊をいただき、貞享 9 年(1692, 元禄 5)まで自宅でお祀りしていた。同年鷺見村人々の信仰心によって現在の地に社殿を建設し、村社として崇めた。

なお、近くには縄文遺跡の敬願寺遺跡がある。



西洞白山神社



鷺見白山神社

ひるがの白山神社

祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊、菊理姫命
昭和 33 年(1958)、白川村尾神郷より神殿と祭具を譲り受けご神体を長滝白山神社から分けていただいて「ひるがの白山神社」を建立した。また、昭和 34 年に第 1 回例祭を行った。(和田繕長「ひるがの神社獅子舞」より)。昭和 45 年には拝殿を鮎走白山神社からいただいた。

令和 7 年(2025)になって神殿、拝殿の老朽化が進んだ為に修繕工事を行った。



ひるがの白山神社

上野白山神社

祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊、
昭和 21 年(1946)上野に開拓事業が始まって以来、氏神として神社建立の願望が入植者の間に起こった。そこで大鷺白山神社の社棟 1 基を譲り受け、昭和 27 年(1952)6 月、長滝白山神社から分身をいただき、上野白山神社を建立した。昭和 52 年(1977)には神域を拡張整備し神殿、拝殿の新築を行う。



鷺見上野白山神社